

第 2 回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会 議事要旨

日 時：平成 28 年 9 月 8 日（木）14：30～16：00

場 所：葉山町役場 議会協議会室 1

出席者

委 員：饗庭伸、藤村龍至、中村和雄、中世貴三、宮寺透雄、小川敏生、山本牧人

事務局：小山誠、行谷友良、長谷川宣治、臼井秀昭、河地大輔、丸山さつ紀

受注者：国際航業(株) 宮野、島田

1 第 1 回委員会議事概要報告

第 1 回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会 議事要旨（案）、資料 9 について事務局より説明。

（饗庭委員長）

「第 1 回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会 議事要旨（案）」に関して修正等があれば、本会開会中に申し出て頂きたい。本会終了後、確定とする。

（一同）

異議なし。

・資料 9 について

（饗庭委員長）

P1 の下図は、面白いグラフである。平成 7 年と平成 22 年を比較すると 40 代の人口が増えており珍しいケースである。生まれ育った人が帰ってきたことと、外部からの転入が継続的にあるということが考えられる。元気な町の良い傾向であると見ている。また、今後、現在の 40 代が高齢化して行き、高齢者が増える時代が来ることが予想される。

2 議事

資料 10、資料 11、資料 12、その他 3、その他 4 について順次、事務局より説明。

（ 1 ）公共施設の実態について

（饗庭委員長）

資料 10 について質疑はあるか。

（一同）

〔 質疑なし。 〕

（饗庭委員長）

資料 11 も併せて考えて頂きたい。

(2) 望ましい施設像、方向性について

・葉山町の望ましい公共施設等像について

(饗庭委員長)

「誰のための公共施設なのかという利用者のターゲットの話」、「どの種類・分野の公共施設が大事であるかという話」、「地域的な話(力を入れるべき地域等)」の3点について皆さんの意見をお聞かせ願いたい。

(中村委員)

葉山町がどういう町づくりをしようとしているのか示されると公共施設に対する考え方が整理できると思う。

(饗庭委員長)

葉山町の町づくりの方向性について一から議論してよいのか。それとも、総合計画や町長の方針を踏まえて議論すべきなのか。

(事務局)

「葉山町人口ビジョンまち・ひと・しごと創生総合戦略」や「葉山町第四次総合計画」では、今後10年間は、現在の人口を維持していくという目標を掲げている。その中では、高齢者がいきいき過ごせるような仕組みづくりや、子育てがしやすい環境づくりを目標として掲げている。公共施設のあり方についても、人口の現状維持という観点と整合を取るという形を考えている。ただ、各施設の利用状況等も踏まえ考えていく必要がある。児童館や青少年会館の日中の利用状況を見ると空いている時間帯が多い。例えば高齢者に自由に利用してもらうことで世代間交流が生まれ、地域の活性化に繋がるといったことも考えられる。また、現在児童館では、学童保育を行っているがスペースが狭くなっているという現状もある。小学校の余裕教室を有効に活用し、そのための事業立ても考えられる。

(饗庭委員長)

人口(実数)の現状維持が方針として出ているが、高齢者や若い世代関係なく数を維持できれば良いのか。

(事務局)

生産年齢人口を増やしたいということから子育て世代をターゲットにした町づくりを目指したいと考えている。高齢者についても近隣自治体と比べると要介護認定率が低いということもあり、高齢者に対しては、健康増進の取り組みをする中で、できるだけ長生きをしてもらう施策の実施により人口を維持していきたいと考えている。

(中村委員)

歩いていけるような範囲に地域の拠点を用意すべきである。行政が全てを担う形ではなくてよく、元気で地域に暮らすための施設整備が重要であると考えます。

(中世委員)

学校の活用も考えられる。また、公民館が各地区に無いため、公民館的な機能を児童館や青少年会館が担うことも考えられる。名称からして、子どもが優先になるが、いろいろな機能を含めることも考える必要がある。

(饗庭委員長)

中世委員の意見は、児童館や小中学校の内部を再編するという意見で良いか。中村委員の意見は、公共施設を増やした方が良いという意見なのか。それとも、民間でできる仕組みを作っていくという意見か。

(中村委員)

公共施設として造るかどうかは色々な手法があると思う。必ずしも公共施設である必要はない。町が補助する形で、地域の空き家を活用するのも良いと思う。

(饗庭委員長)

小学校の余裕教室や児童館を活用することでも意味はあるのか。

(中村委員)

横浜市は、対象者を限定せず地区センターを造った。利用者を限定しない方法もある。子育て世代にとっては、学校の中身の充実が重要である。余裕教室を、地域の拠点のために使用するか、教育の質を高めるために活用するのかといった議論があると思う。

(中世委員)

学校の図書室を地域の子育て世代に土日開放することも考えられる。ただ、児童・生徒の個人情報保護や安全上の問題があるため、施設の改築が必要になってくると思う。

(饗庭委員長)

資料 10 の P2 建替え年表を見ると、小中学校の方針を立てておくことが大事であると思う。計画の中でも方針をはっきり出しておくところだと思う。

・管理・運営について

(饗庭委員長)

施設の管理・運営について、町民・民間はどうあるべきでしょうか。

(藤村副委員長)

今後、福祉分野の状況が厳しくなるということがあり、アクティブシニアがコミュニティでどういう環境をつくるか、そのために公共施設はどうあるべきかという議論をしている事例がある。別の市で言うと、自治会組織、自主防災組織の再編が進んでいるが活動の場所がない場合、公民館を廃止し市民センターとして活用するという事例もある。どのような組織体系で、高齢化の課題についてどのように運営し、町民との分担をしていくかを考えると議論しやすい。市民協働みたいな部署は、葉山町にはあるのか。

(事務局)

昨年できた政策課協働推進係で担っており、ゴミの資源化・減量化について、自治会・町・民間事業者で協議している。今後この協議をきっかけに自治会で担える事柄等についても協議できたらと思う。

(藤村副委員長)

空き家、高齢者見守りへの対策として、生きがい就労を活用する動きもある。地元の人が、地元のニーズ・活動のテーマに合わせて活動を行うことも考えられ、活動に合わせた施設も考える必要がある。公民館や児童館などは、延床面積 2,000 m²までの施設が

望ましいが、小学校は馴染まない。地区施設と学校施設を分けて考え、地区施設の運営に関してどうすることが望ましいかを協働推進の議論と併せて検討していくことが基本的な道筋である。

(小川委員)

既存の概念のまま児童館や公民館といった施設を運用しているため、先ず利用者のニーズを把握し、それを基に施設が必要か不要か、どんなものが必要かを考えていく必要がある。

(宮寺委員)

基礎データを拾い上げることが絶対条件である。施設を残す、用途を変えるといたところに対して長期修繕計画を立てる必要があると思う。また、町民のニーズを把握し、場合によっては町民にも運営に携ってもらう必要がある。昔は、建物の修繕はほとんど地元の人がやっていた。修繕に併せて周りの掃除や草刈等も行っていたが、最近、町発注の仕事も減り、掃除や草刈等を行う余裕がなくなったという現状もある。

(藤村副委員長)

修繕は、規模・構造の問題もあるのか。

(宮寺委員)

木造であれば管理も含め、地元でできる。

(藤村副委員長)

地区施設は、地元で管理できる構造にしていくことが望ましい。小学校に関しては、木質・低層化して地元で管理していくということが大きな流れではないかと思う。

・葉山町（行政）運営することに優位性があるものについて

(饗庭委員長)

資料10P2の施設一覧の中で、行政・民間どちらが運営すべきか意見をいただきたい。例えば「町役場」、「汚水処理場」、「クリーンセンター」、「消防施設」、「公営住宅」は行政がやるべきではないか。

(藤村副委員長)

民間企業、NPO法人、地元の建設会社など民間を区別してイメージするべきである。公営住宅は、民設公借でリフォームして用いるという方法が、他地域で議論されてきた。空き家を借り上げて準公営にすることも考えられる。

(饗庭委員長)

「いこいの家」は、どういう施設か。

(宮寺委員)

「いこいの家」は、元民家であったものを集会所にした。

(事務局)

「子育て支援センター」は、旧保育園を民間に指定管理委託しており、NPO法人が運営している。

(饗庭委員長)

集会施設の中身を高度化・多角化することが良いという意見もありそうだが、民間に期待できそうなものはどれか。

(中村委員)

図書館は、民間に委託している自治体もあるため、民間参入もあると良いのではないか。「HAYAMA STATION (今年9月開業の商業施設)」の中には町のスペースもある。事業者自主事業の企画実施も含めて運営を委託してしまう方法もある。

(事務局)

「HAYAMA STATION」は、商業施設ということで葉山町商工会が建てたもので、その中に、町が借りているスペースがある。公民館教室や保健施設、サークル活動の場として貸し出すことも検討している。

・ 計画的な管理について

(饗庭委員長)

定期的 (10 年程度) に使用者同士で施設に関して「使っているか?」、「何に使ったらよいか」など、フラットに考える場 (ワークショップ等) もあるべきだと思う。

(藤村副委員長)

資料に記載されているものは、基本的にやらないといけないものばかりであるが、どういった意図で質問しているのか。全部やらないと予防保全にならない。診断基準の統一化を考えると部署を跨いで統一する必要がある、庁内で体制を構築できるかどうかといったことになってくる。

(宮寺委員)

全体像 (環境・立地・統廃合等) が見えることにより、長期修繕計画の検討ができると思う。現状の施設の細かい部分の把握がまだできていないように思う。

(藤村副委員長)

資料 1 0 P1 で出ている財源の項目で、普通建設事業費は、平成 19 年度以降は、7 億円を下回る水準で推移しているとしているが、予防策は含まれていなく、事後保全のみということか。

(事務局)

公共施設に優先順位を付けて取組むことがなかなかできていない。各所属の部署の方で優先順位をつけて対応してもらうことが必要である。これからは、予防保全を重視し、計画の中でこういった手順で修繕を行うか方向付けをする必要がある。現在、普通建設事業費は、落ち着いた数値となっているが、今後増えていくと思う。

(藤村副委員長)

他の事例では、耐震補強が進んで予算が落ち着いたが、予算をなかなか上げにくくなり、再配置に関して財源的な目途が立たないまま議論が膠着してしまっているといった所もある。そのためにも全庁的な議論を継続する必要があるのではないかと。

また、体制の問題でもあるため「資料 1 1」(7) 総合的かつ計画的な管理を実現する

ための体制の構築方針」から始めたらどうか。

(3) 町民アンケートについて

(饗庭委員長)

資料12に書かれている内容は良いと思われるため、追加項目があればお聞かせ願いたい。

(藤村副委員長)

対象者 1,500 人に関して、6 地区ごとに人口傾斜をかけて抽出すると良い。比較的人口の多い 40 代、団塊の世代である 60 代の動向を把握できるように年代別に抽出すべきである。

(事務局)

6 地区ごとに人口傾斜をかけて 18~79 歳をまんべんなく拾う形で抽出することを考えている。なお、メッシュ毎の人口分布の推定も試みたいと考えている。

(藤村副委員長)

松戸市の場合、新街道沿いと旧街道沿いとニュータウンにおいて人口動態が 3 タイプあった。旧街道沿いは、人口動態が安定しているが、ニュータウンは急速に高齢化が進んでいる。それにより施設ニーズも変わってくる。葉山町においても新興住宅地と旧集落のようなどころなど場所によってパターンが異なると思うので課題把握が必要になると思われる。

(山本委員)

SNS の活用や施設でのアンケートも考えられる。アンケートの書き方だが、資料11のような資料では分かりにくい。分かりやすい質問にするべきである。

(中村委員)

町がどういう町づくりをしたいかイメージできるような形にして欲しい。

(小川委員)

12 月のパブリックコメントでは、アンケートの結果から切り口を変えて実施するのか。

(事務局)

アンケート及び委員会の結果を踏まえて、計画に対してのパブリックコメントを実施する予定である。

(宮寺委員)

住民にとって身近な話としてやると良い。

(藤村副委員長)

アンケートでは、施設の活用についての考え方を把握することが最も重要である。町民の参加協働では、どのような地域活動をしているのか、例えば 40 代の人達が 60 代になったらどのような人生を送りたいのか等を聞きながら地域に参加していくためにどういったことが必要なのかというような問いが必要と思う。

別の分野のアンケートではあるが、横須賀市では、ターゲットを先鋭化して「どこから転入してきたのか?」、「他に居住地の候補があったのか?」といった質問もあり、

戦略的にシティプロモーションをかけることを行っていた。子育てを人口維持の手段としてやっていくにはそのようなことも必要になり、施設のニーズの調査とも重なる部分もある。30代40代の人達が何を求めて葉山にやってくるのか、どのような公共施設・サービスがあればより優位なのかというようなことはアンケートの中で調べてみても良いのではないかと思う。

(小川委員)

アンケートの中に下水道に関する質問をしてもしょうがないと思うので、ピンポイントに質問した方が良い。

(4) その他

質疑なし。

3 今後の予定について

(事務局)

次回の委員会は、12月12日(月)とし、14:00から30分間フリーディスカッションを実施し、14:30から会議を開始することがか。

(一同)

異議なし。